

# 若手研究者海外派遣プログラム 派遣終了報告書

1 派遣者	
所属機関	国際日本文化研究センター
氏名	石上 阿希

2 派遣計画 概要	
派遣国	イギリス
派遣期間	平成 28 年 8 月 15 日 ～ 平成 28 年 9 月 15 日
派遣先機関名	ロンドン大学 SOAS
(英語)	SOAS University of London
受入教員名	アンドリュー・ガーストル
(英語)	Andrew Gerstle
研究課題名	南蛮屏風研究と資料画像データベースの構築
(英語)	Study of Nanban-byobu and Construction of an Image Database

### 3 派遣による研究実績

#### (1) 調査研究実績 (研究計画に沿い、実施したことを記載してください。)

本派遣では以下の2点について研究を行った。

- (1) ロンドン大学 SOAS 図書館の資料調査
- (2) 「近世絵入百科事典データベース」に関連する研究のネットワーク構築

具体的な実施内容は下記の通り。

- (1) ロンドン大学 SOAS 図書館の資料調査

SOAS 図書館には Council for World Mission Archive の manuscript 部門に保管されたメドハースト (Walter Henry Medhurst, 1796-1857) が送った報告書や書簡が所蔵されている。イギリス人宣教師で『英和・和英語彙』の編著で言語学上大きな影響力をもつメドハーストはバタビア在住の期間中に華僑である郭成章と知り合あったとされる。郭はのちにシーボルト (1796-1866) の助手となり『Nippon』の編集にも携わった。

本派遣では、バタビアやジャワに滞在中の全ての書簡・報告書を撮影し、2037 枚の画像データを得た。具体的には 1820 年代～1840 年代にかけて、バタビア、ジャワ、マラッカ、ペナン、シンガポールでの在任期間中に記された資料を対象とした。中国人の子どもたちに教育することの難しさなどが綴られており、各地で行った宣教活動を詳細に報告している。

撮影したデータはプロジェクト専用ドライブで即時共有し、申請者の滞在中にメンバーによる画像の確認を行い、追加の調査なども行うことが出来た。今回の派遣は資料データの収集のみで、実際の翻刻・和訳は今後の作業となる。なお、これらの作業はプロジェクトメンバーの郭南燕准教授 (日文研)、陳力衛教授 (成城大学) の二人を中心に進める。

- (2) 「近世絵入百科事典データベース(仮)」に関連する研究のネットワーク構築

申請者は日文研のデータベースとして「近世絵入百科事典データベース(仮)」の構築を進めている。本データベースは近世期に出版された絵入百科事典を対象としたもので、『訓蒙図彙』をはじめとした「訓蒙図彙もの」、また名称と図解が含まれている書物を対象とする。対象資料は日文研所蔵のものだけではなく、国文学研究資料館、国会図書館、早稲田大学図書館などのデータベースで画像が公開されているものを含める。

本データベースは 2016 年度中の公開を予定しており、それに関連して 2017 年 7 月に国際シンポジウムを開催する。江戸初期から近代に至るまで書物を介した知識・情報の伝播と展開について文学、演劇、美術、意匠など様々な発表テーマを設ける。本派遣では、SOAS や大英博物館などの研究者などと情報交換を行い、シンポジウムの構成や招聘する研究者の選定、交渉を行った。期間中に在外研究者 3 名と意見交換を行い、参加の許諾を得ることができた。

また、9 月 5 日には受入教員であるアンドリュー・ガーストル教授が主催する研究ワークショップ「The Role of Art and Literature Salons in 18th and 19th Century Japan」に参加し、ロンドンにおける日本文化研究の最新動向について情報を得た。

(2) 基幹研究プロジェクトにおいてこの派遣が果たした役割

本調査は申請者が所属する「異分野融合による「総合書物学」の構築—キリシタン文学の継承：宣教師の日本語文学」プロジェクトの一環であり、今回の派遣で収集した画像データをプロジェクトメンバーと共有し、書簡・ジャーナルの翻刻、和訳を行っていく。

シーボルトと関係の深い華僑と、近代日本語に影響を与えた辞書の著者で、宣教師のメドハーストとの間にどのような相互影響があったのかを検討することで、宣教による中国・オランダ・日本の結節点を明らかにすることが可能である。本派遣はその基礎となる情報収集を担っており、今後のプロジェクト研究を進展させる上で重要な研究活動を行うことができた。

(3) 所属機関における学術分野に貢献する事項

本派遣における研究の内以下の2点を日文研において発展させる。

(1) 「近世期絵入百科事典データベース(仮)」2016年度中に公開予定

『訓蒙図彙』を中心とした図解百科事典の画像と翻刻を検索するデータベースで、日文研所蔵資料に加えて国文学研究資料館など他機関が所蔵・公開する資料も利用するものであり、他機関と連動した横断的データベースとして新しい発展が見込まれる。

(2) 2017年7月開催予定の国際シンポジウム

本シンポジウムでは「イメージを介した異文化情報の融合」をテーマとして絵入百科事典、南蛮屏風、着物雛形本、デジタルアーカイブなどの研究を発表する。

(4) 研究成果(著書、論文及び報告書名・講演題目)

- ★ 2016/11/24-25 「出版物にみる知識の収集と展開—絵入百科事典を中心に」、 「第23回日文研国際シンポジウム：南太平洋から見る日本研究：歴史、政治、文学、芸術」、 ニュージーランド・オタゴ大学
- ★ 2016/12/3-4 「タイトル未定」、 日文研共同研究会「投企する古典性」、 慶應義塾大学
- ★ 2016/12/10-11 「「絵入百科事典の系譜と展開—『訓蒙図彙』を中心に」、 「国際フォーラム2016：絵入り本と日本文化」、 東洋文庫ミュージアム
- ★ 2016年度中「近世期絵入百科事典データベース(仮)」公開スタート
- ★ 2017/7 予定「国際シンポジウム：訓蒙図彙／絵辞典／図像(図彙)DB／近世絵入百科事典(仮)」(日文研)

(5) 見込まれる研究成果(著書、論文及び報告書名・講演題目)

- ★ 単著『絵辞典の時代——ことばが見える「訓蒙図彙」の三百年(仮)』(角川書店、2018年度末刊行予定)

(注意事項)

- ・本報告書は、帰国後1ヵ月以内に提出して下さい。
- ・この報告書を、本機構により刊行、Web掲載、広報冊子等として公表することがあります。この場合、内容に影響しない範囲で修正を行うことがあります。